

盆おどり特集号

第 9 1 号
平成28年8月10日

発行 八幡コミュニティ
責任者 寺島康夫 TEL 33-3230
印刷 八幡コミュニティ
編集 総合管理本部

やわたコミュニティ

納涼

7月23日・24日



暑さも忘れ みんなで楽しく



おどりの曲目

知多盆唄 法海寺おんど 音頭にっぽんめでた お座敷小唄
恋をするなら 郡上節 恋するフォーチュンクッキー 炭坑節



御 芳 志 御 礼

盆おどり大会開催にあたり、多大なご芳志をお寄せいただきましたので、ご披露させていただきます(順不同)。
大会役員一同、厚く御礼申し上げます。ありがとうございます。

法海寺 立松圓浄	様金 参萬円也
矢永齒科医院	様金 参萬円也
新日鐵住金株式会社 名古屋製鐵所	様金 参萬円也
東亜非破壊検査株式会社	様金 参萬円也
法海寺総代一同	様金 貳萬円也
平成二八年度 組長・町内会長一同	様金 参千円也
平成二五年度 組長・町内会長一同	様金 参千円也
歴代区長会	様金 壹萬円也
早川峰生	様金 壹萬円也
吉祥院 立松圓俊	様金 壹萬円也
大乘院 菊地円能	様金 壹萬円也
株式会社 チタソー	様金 壹萬円也
合資会社 永井金物店	様金 壹萬円也
JXエネルギー株式会社 知多製造所	様金 壹萬円也
中部電力株式会社 知多第二火力発電所	様金 壹萬円也
東邦ガス株式会社 知多製造部	様金 壹萬円也
株式会社 I H I 愛知事業所	様金 壹萬円也
あいち知多農業協同組合 知多支店	様金 壹萬円也
株式会社 モリタ	様金 壹萬円也
旭リース	様金 壹萬円也
早川新聞店	様金 壹萬円也
きもの乃丸浩	様金 壹萬円也
知多プリント商社	様金 壹萬円也
知多プリント商社	様金 壹萬円也
加古齒科医院	様金 壹萬円也
東海ガス株式会社	様金 壹萬円也
寺島自動車工業	様金 壹萬円也
亥新田町内会	様金 壹萬円也
寺本新町町内会	様金 壹萬円也
一るるん食品	様金 壹萬円也
山口齒科医院	様金 伍千円也
一eでんきはな	様金 伍千円也
平成二六年度 副区長 磯貝生男	様金 伍千円也
平成二七年度 亥新田組長 佐藤秋廣	様金 伍千円也
共和モータース	様金 伍千円也
福助	様金 伍千円也
野彦醸造場 内山雅春	様金 伍千円也

郷土・知多市の 伝統民俗芸能を守る会	様金 伍千円也
魚 宮	様金 伍千円也
保険のえぼつく	様金 伍千円也
ハ酪乳業	様金 伍千円也
有限会社 エール旅行 村瀬清利	様金 伍千円也
合資会社 早川電気商会	様金 伍千円也
マルセポンプ	様金 伍千円也
寺本饅頭本舗	様金 伍千円也
魚 白	様金 伍千円也
合資会社 森田屋伸嘉	様金 伍千円也
朝日屋石油店	様金 伍千円也
平成二七年度 荒井組長 柴田由起夫	様金 伍千円也
平成二七年度 荒古組長 阿知波康史	様金 伍千円也
平成二七年度 堀之内組長 花井計夫	様金 伍千円也
平成二七年度 廻間組長 山本道男	様金 伍千円也
平成二七年度 中島組長 平松輝雄	様金 伍千円也
平成二七年度 中山根組長 内山榮夫	様金 伍千円也
平成二七年度 浜小根組長 富田幸男	様金 伍千円也
平成二七年度 西平井組長 柿野 豊	様金 伍千円也
平成二七年度 上平井組長 杉浦道人	様金 伍千円也
平成二七年度 杉山組長 本田 進	様金 伍千円也
平成二七年度 八幡新町 蟹江憲二	様金 伍千円也
平成二七年度 寺本台 加藤欽陽	様金 伍千円也
平成二七年度 寺本新町 須原修一	様金 伍千円也
伊藤 保	様金 伍千円也
八幡新町町内会	様金 伍千円也
匿名 名	様金 伍千円也
匿名 名	様金 伍千円也
平成二八年度 副区長 石井常雄	様金 伍千円也
知多八幡郵便局	様金 参千円也
株式会社 ホリテック	様金 参千円也
カニイ	様金 参千円也
有限会社 知多プリント商社	様 ビール
東邦ガス株式会社 知多製造部	様 うちわ
あいち知多農業協同組合 知多支店	様 うちわ
チタメディアス ネットワーク株式会社	様 うちわ

ふるさと検定 八幡塾《探訪考証編》
平成28年度メインテーマ

郷土の伝統・文化を学ぶ

住民参加・住民が主役、ふるさとの素顔を記録

八幡の伝統・文化記録事例

(問合せ先) 事務局 平松正毅 TEL 32-1019



大祓は、我々日本人の伝統的な考え方に基づくもので、常に清らかな気持ちで日々の生活にいそむよう、自らの心身の穢れ、そのほか、災厄の原因となる諸々の罪・過ちを祓い清めることを目的としています。

この行事は、記紀神話に見られる伊弉諾尊（いざなぎのみこと）の禊祓（みそぎはらい）を起源とし、宮中においても、古くから大祓がおこなわれてきました。中世以降、各神社で年中行事の一つとして普及し、現在では多くの神社の恒例式となっています。

年に二度おこなわれ、六月の大祓を夏越（なごし）の祓と呼びます。大祓詞を唱え、人形（ひとがた）の形に切った白紙（ひら）などを用いて、身についた半年間の穢れを祓い、無病息災を祈るため、茅や藁を束ねた茅の輪（ちのわ）を神前に立てて、これを三回ぐりながら「水無月の夏越の祓

七月三〇日
八幡神社において
夏越しの大祓い齋行

する人は千歳の命のぶといふなり」と唱えます。また、十二月の大祓は年越の祓とも呼ばれ、新たな年を迎えるために心身を清める祓いです。

私たちにとって、その年々の節目におこなわれる大祓は、罪や穢れを祓うとともに、自らを振り返るための機会としても、必要なことではないでしょうか。

